

テスト名	ACTFL	ACTFL	ACTFL
1. 運営事業団体	ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages)	ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages)	ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages)
2. テスト作成母体	LTl (Language Testing International)	ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages)	ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages)
3. 主たる受験対象者	英語を第二言語とする学習者		
4. 目的	大学生のプレイズメント、評価、教員の質の保証などに利用されている		
5. 構成概念の構成(測定する能力)	Oral Proficiency Interview (OPI)	Writing Proficiency Test (WPT)	Reading Proficiency Test (RPT)
6. テストの性質(テキスト・タスクの性質など)	(1) Warm-up: 目標言語に慣れさせる (2) Level check: 受験者が楽に正確かつ流暢にこなせる言語機能と内容の特定が行われる (3) Probes: 受験者ができないと思われる項目が提示される (4) Wind-down: 受験者のレベルに見合った項目が提示される	(1) Introduction and Warm-up: テストの指示がある (2) Writing prompt: descriptive, informative, narrative, persuasiveという4領域から1項目ずつ指示に従って作文する	(1) 多肢選択式: 選択肢のうち1つを選ぶ。1つのレベルにつき5つのテキストが与えられ、それぞれのテキストに4つ多肢選択式の問題が与えられる
7. 採点基準	ACTFLまたはILRの採点基準が適用される		
8. 項目数	1項目	4項目	1レベル20項目(最大200項目)
9. 得点	ACTFLから受験者のレベルを明記した証明書が発行される		
・Superior	様々なトピックについて場面を問わず正確かつ流暢に話すことができる	複雑な事柄を説明し、その意見を説得力のある議論でサポートすることができる	あらゆる場面で方言を含んだ談話を理解することができる。
・Advanced High	上級レベルのコミュニケーション上のタスクを楽に自信をもって遂行するだけの言語能力を有して多くのコミュニケーション上のタスクを遂行できるが発話にためらいが見られることがある	様々なトピックについて正確かつ詳細に書くことができる。ただし議論の抽象性に欠ける場合がある	様々なトピックについて理解できるが、知らない語句を内容から推測できない場合に困難が見られる
・Advanced Mid	中級レベルのタスクを楽に自信をもって遂行できるだけの言語能力を有している	特定の仕事やアカデミックライティングのために正しい文法や語彙を用いて書くことができる	馴染みのある話題について、特に人物や場所、物事に関する内容を理解できる
・Advanced Low	日常の会話などを楽に自信をもってできるだけの言語能力を有している	簡単な仕事やアカデミックライティングに対応できるが、複雑な文法や語彙、一貫性の欠如が見える	談話構造が複雑でなければ短い会話に限り理解することができる
・Intermediate High	タスクや社会的立場が複雑でない場合は上手くコミュニケーションできるだけの言語能力を有する	限られた日常のトピックについて短い文を書くことができるが談話を構成することに難を感じる	簡単な文の長さの会話であれば楽に自信を持って理解することができる
・Intermediate Mid	タスクや社会的立場が複雑でなく、限られた場面では上手くコミュニケーションできるだけの言語能力を有する	限られた日常のトピックや馴染みのある話題について主張や疑問を述べることができる。文の多くは既習の語彙や文法項目を並べたものである	馴染みのある内容を予測しやすいトピックについて文の長さの簡単な会話であれば理解できる
・Intermediate Low	中級レベルのタスクを遂行できるが、中級レベルの学習者ほど安定したパフォーマンスを発揮で最小限のコミュニケーションはとれるが、学んだ言語を限定された状況でしか使えない	非常に限られた簡単なトピックについて、リスト、短いメッセージ、葉書、メモの形などで書くことができる	馴染みのある内容について文の長さであればある程度理解することができる
・Novice High	学んだ言語を限定された状況でしか使えない	非常に限られた簡単なトピックについて、リスト、短いメッセージ、葉書、メモの形などで書くことができる	文脈やジェスチャーなどの情報が無ければ簡単な文の長さの会話でも理解に困難を示すことができる
・Novice Mid	コミュニケーションをとることができない	非常に限られた簡単なトピックについて、リスト、短いメッセージ、葉書、メモの形などで書くことができる	馴染みのある単語を聞き取ることができる
・Novice Low	コミュニケーションをとることができない	非常に限られた簡単なトピックについて、リスト、短いメッセージ、葉書、メモの形などで書くことができる	馴染みのある単語を聞き取れる場合がある
10. 受験時間	20-30分	90分	50-120分(希望する測定レベルによる)
11. 受験者数	記載なし		
12. 受験料	テストセンターにより異なる		
13. ウェブサイト	http://www.actfl.org/ http://actflproficiencyguidelines2012.org/ (採点基準)		
14. その他(変化・特徴など)	日本で受験する場合はアルクに申し込むことになる。		

* 日本ではあまり有名ではないが海外では広く使われているようである(A.H.)